

種苗の安定確保向け 関係機関と連携強化



立花洋之常務理事に聞く

地球温暖化を背景とする不漁が続く、新型コロナウイルス禍による魚価低迷も響く。当組合の経済事業に関し、運営方針や課題などを担当の立花洋之常務理事に聞いた。

立花洋之常務理事

春漁の代名詞

と云えるコウナゴの昨年の水揚げ量はゼロ。イサダやサンマ、秋サケなども軒並み歴史的な不漁に見舞われている。海水温が上昇する

と養殖の期間が短くなり、生産量が減る。ノリの色落ちや力キの採苗不良への影響も懸念される。磯焼けはアワビの漁獲に大きな打撃を与えている。

——海水温の上昇により、養殖業を支える土台が変わってしまう恐れもある。対策はあるのか。

立花常務理事 高温耐性を持った種苗の開発が不可欠だ。関係機関と連携しながら早急に進める必要がある。好調なギンザケなども含め、より良

い種苗の確保に向けた体制づくりを目指したい。漁業の持続可能な発展のためには、温暖化を抑制する動きがある藻場を再生させたり減少を食い止めたたりする手立てを講ずる取り組みなども重要だ。

——東京電力は福島第一原子力発電所の処理水の処分をめぐる、原発の沖合1キロほどの海洋に放出する方針を固めた。

立花常務理事 海洋放出は断固反対だ。風評被害は国内だけの問題ではない。14力国・地域が水産物の輸入停止や規制を次第だが、手をこまねい

仙台湾に保護区域 同封チラシに詳細

技術賞 三浦一郎（矢本）山内良裕（宮戸西）小野真義（同）齋藤吉勝（七ヶ浜・代ヶ崎浜）大石頭（同・東宮浜）



代表理事組合長 寺沢 春彦

送業など水産業を取り巻く地域産業へも大きな影響を落としております。そして、「組合員の生活向上、漁村地域の永続」と「消費者の皆さまに安心・安全な水産物のお届け」を使命とし、役員一丸となり鋭意事業活動に取り組んでまいりますので、皆さまにはご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

安心安全の使命胸に刻み 豊かな海を守る漁業推進

東日本大震災から10年が経過し、県内の各浜は以前のような活気を取り戻し、温暖化の影響と思われる

自然環境に適した沿岸漁業の構築と、将来にわたって持続可能な漁業を目指して取り組んでまいります。

年頭あいさつ

新年あけましておめでとうございます。さらなる発展を目指して新たな養殖業への着業や販路の拡大、担い手の育成など転換期を迎えているものと思われま

と感じております。このことにより当組合と致しましては、あらためてこの豊かな海を後世に引き継ぐことが重要であると実感し、資源管理や漁場環境の保全に取り組みながら、変化す

全漁連 高橋、近藤両氏に系統功労者表彰

全漁連の今年度漁協系統功労者表彰の受賞者が2氏が栄誉に輝いた。



高橋一郎氏



近藤正昭氏

漁協運動功労者に前宮津支所運営委員長の高橋一郎氏（74）、漁業振興功績者に本所のり部会長の近藤正昭氏（70）がそれぞれ選ばれた。

昨年度に続き、新型コロナウィルス対策として例年東京都内で行っていた表彰式は中止に。寺沢春彦組合長が昨年11月、各支所に足を運び、祝いの言葉を述べ2氏に褒状と記章を伝達した。

優賞は星氏（七ヶ浜・松ヶ浜） 準優賞は菊地氏（仙南巨理）

塩竈市の鹽竈神社で1月11日、第74回奉獻乾海苔品評会の表彰式があった。当組合11支所が出品した100点の中から、最高賞の優賞（県知事賞）に選ばれた星兵衛氏（60）は七ヶ浜支所・松ヶ浜IIと準優賞（塩竈市長賞）の菊地幹彦氏（59）は仙南支所巨理IIに賞状とトロフィーを贈呈した。両氏のノリは皇室に献上される。

品評会は同6日、当組合塩釜総合支所で開催。色つや、重さ、香りなどが吟味された。入賞作は76点。審査委員長を務めた仙南支所巨理（七ヶ浜・代ヶ崎浜）石森圭太（同）名村忠之（七ヶ浜・東宮浜）梶田利一（同・要害）遠藤力（同）▽式等賞 津田大（矢本）尾形文秀（宮戸西）津田雅彦（仙南巨理）穴戸敏浩（同）大町昭（七ヶ浜・松ヶ浜）齋藤陽東（同・葛田田浜）星長一（同・東宮浜）戸正一（同）

鹽竈神社・乾海苔品評会



「献上のり」に選ばれた星氏（右）と菊地氏（左）

海の子の思い作文に

表現力豊か、24人表彰

女性部連絡協議会

宮城県漁協女性部連絡協議会(内海やまなみ会長)が主催する第37回「みやぎの海の子」作文の表彰式が1月6日、石巻グランドホテルで開かれ、入賞した小中学生24人に賞状と記念品が贈られた。

式が1月6日、石巻グランドホテルで開かれ、入賞した小中学生24人に賞状と記念品が贈られた。第一部(小学1～3年生)、第二部(小学4～6年生)、第三部(中学生)の3部門に、県内28校から前回の約2倍となる145点の応募があった。海で働く家族への感謝や思いやりの気持ちから、震災復興に向けた歩み、環境・密漁問題に至るまでテーマは多彩。表彰式では村井嘉浩県知事(代読)、寺沢春彦組合長の祝辞に続き、各部門で最高賞の県知事賞に輝いた3人が作品を朗読した。



県知事賞に輝いた児童生徒3人と県水産林政部の石田幸司副部長

西城菜々香さん(南三陸町立志津川中3年)は、父親や祖父が力キ養殖を営む志津川湾への思いを発表。津波が多く、命を失ったことについて、海は憎めない、と涙ながらに話す漁業者らの姿に、共に生きることで恵みを受け、

生命が宿る海は「心の一部」だと気付かされたという。町が復興する中、志津川湾は国際的に重要な湿

地を保全するラムサール条約に登録。「輝く海へと奇跡の復活・復興を遂げた。海は多大な希望と誇りを与えてくれる。未

第37回「みやぎの海の子」作文入賞者

部	賞	題名	氏名	学校名	学年
第一部	宮城県知事賞	初めて開口に行ったこと	武山 煌	石巻市立北上小学校	3年
	宮城県漁業協同組合賞	泳ぐホタテ	菅原 楓	南三陸町立志津川小学校	3年
	宮城県漁業共済組合賞	生まれかわった戸倉の海	星 まつり	南三陸町立戸倉小学校	3年
	宮城県JF共済推進本部賞	わたしのあばちゃん	津田 ゆうら	亶理町立荒浜小学校	3年
	日本漁船保険組合宮城県支所運営委員長賞	自然を守ろう、ぼくの大島	菊田 睦己	気仙沼市立大島小学校	3年
第二部	宮城県漁業信用基金協会理事長賞	きれいな海へ	佐藤 芽依	気仙沼市立松岩小学校	3年
	農林中央金庫仙台支店長賞	うみとかぞへ	村岡 李絃	南三陸町立戸倉小学校	1年
	宮城県漁協女性部連絡協議会長賞	ひがたを守りたい	菅野 愛珠	南三陸町立戸倉小学校	3年
	宮城県知事賞	大好きなお父さん	渡邊 ひらり	石巻市立奇磯小学校	5年
	宮城県漁業協同組合賞	海と生きる	浜畑 侑生	石巻市立奇磯小学校	6年
第三部	宮城県漁業共済組合賞	今年の開口	阿部 波音	南三陸町立伊里前小学校	6年
	宮城県JF共済推進本部賞	海とくらす	伊藤 和美	南三陸町立伊里前小学校	5年
	日本漁船保険組合宮城県支所運営委員長賞	海を守るためにできること	堀内 香奈	気仙沼市立唐桑小学校	6年
	宮城県漁業信用基金協会理事長賞	出逢えて良かった海	本蔵 暖香	気仙沼市立松原小学校	5年
	農林中央金庫仙台支店長賞	父が教えてくれた海のこと	渡辺 隆介	石巻市立大原小学校	5年
第四部	宮城県漁協女性部連絡協議会長賞	私のお父さんの仕事について	門間 海愛	石巻市立鹿妻小学校	4年
	宮城県知事賞	碧き海に我愛を	西城菜々香	南三陸町立志津川中学校	3年
	宮城県漁業協同組合賞	海への感謝	高橋 結	南三陸町立志津川中学校	2年
	宮城県漁業共済組合賞	海の豊かさを守ろう	及川 姫星	南三陸町立志津川中学校	1年
	宮城県JF共済推進本部賞	生き物が求めるきれいな海	小松 優	気仙沼市立大島中学校	2年
第五部	日本漁船保険組合宮城県支所運営委員長賞	パパの生きる原動力となる	加藤 沙和	南三陸町立志津川中学校	1年
	宮城県漁業信用基金協会理事長賞	海とともに	藤田 景	女川町立女川中学校	3年
	農林中央金庫仙台支店長賞	美しい海を取り戻すために	泉田 華那	気仙沼市立面瀬中学校	1年
	宮城県漁協女性部連絡協議会長賞	海と共に生きる	須藤 瑞莉	南三陸町立志津川中学校	2年

釣り人を連携救助 組合員ら5人に感謝状



感謝状を贈られた(前列左から)小椋さん、佐々木さん、武山さん、佐藤さん、内海さん

来の志津川湾を守るといふ使命を胸に抱き生きていく」と力強く誓った。内海会長は「いずれの作品も、書き手の思いが

ひしひしと伝わる魅力的な内容だった」とたたえた上で、「家族と共に漁業を担ってくれば、後継者不足の解消につながる

る」と期待した。入賞作品は冊子にまとめられ、応募のあった学校や各支所などに配布される。

らが釣り竿などで救助を試みたが、男性が沖に流されたことから118番通報した。

命を取り留めた。同支所で保安署の伊藤康彦署長が「(男性は)海水を誤飲し、低体温のため体力が奪われ、命の危険が差し迫っていた。迅速な救助活動によって若い釣り人の命が助かった」と述べ、感謝状を手渡した。

ん、小椋圭史さんと武山さち子支所長、内海信弘課長の5人に石巻海上保安署から感謝状が贈られた。

救助依頼を受けた宮城県水難救済会十三浜救難所所属の5人が船で現場に急行。同3時19分ごろ、沖200メートル付近でライフジャケット(救命胴衣)を着て漂流していた男性を船内に収容した。

当時の気象状況は風速5メートル、波高2.3メートル、水温18度で波浪注意報が出されていた。男性は肺炎を起こしていたが、市内の病院に搬送され、一

救命胴衣の効果確認 海難事故防止へ講習会

歌津女性部

当組合歌津支所女性部

(三浦弘子部長)の海難防止講習会が昨年11月8日、スポーツアカデミー

正しい着用方法を解説。実際に身に着けた部員たちは、プールの中で、手足をバタつかせなくても頭部を水面上に維持できる浮力効果を確認した。簡易救助員の「非常

27

協同組合論

北海学園大学経済学部教授

濱田 武士



「漁協が漁業者の魚を高く買って高く売れば良いのに、なぜそれができないのか」。これはある政治家が発した共同販売事業に対する批判です。漁協が販売手数料を取るだけで売る努力をしていないとも言いたいのでしよう。

漁協は「組合員に奉仕する」のが基本任務です。組合員の経営が厳しくなる状況になればなんとかしようと思います。この点を考へての発言とは思いますが、冒頭の発言は漁協にも経営があるというところを無視しています。漁協が魚を高く買え

あらためて考える漁協の任務

高く売れる保証があれば良いのですが、そんなに世の中は甘くありません。相場を無視して組合員の出荷物を高く買っても高く売れません。そのようなことを続けただら漁協は販売赤字を抱えるこ

とになります。その赤字が大きくなると漁協経営が傾きます。そうなる組合員は漁協を破産させるわけにはいかないのです。増資して漁協を支えなくてはならなくなります。漁協が安く買ってしまうと

は奉仕に見えますが、その赤字が累積し、経営が傾けばそれは組合員に対する背反行為になります。ですから、漁協は組合員から販売委託を受けてその出荷物を指定買受人に全て売り切ること

は対抗できなくなりまです。そのとき大事になつてくるのは組合員皆で生産の方法を改善すること、指定買受人との対話をしっかりとつづけることです。相場が低くても、さらにコストを削減

協同組合は、事業体の主導力・牽引力も必要です。組合員のしつかりとした参加意識がないとダメなのです。そうです。「漁協が」ではなく「組合員と共に漁協の事業

体が「協同組合の事業を良くしていくしかないのです。漁協は万屋(ヨロズヤ)ではなく、組合員が自分たちに必要な協同事業を行うための器です。その器の中には、役員・職員組織である事業体と、組合員の結合体があります。器の中のこと

組合は来年度以降も着用効果の周知に力を注ぐ。浮力効果を確認する部員



組合からのお知らせ

信用共済部

3月31日まで、現金自動預払機（ＡＴＭ）限定の定期貯金・定期積金金利上乗せキャンペーンを展開しています。当組合の総合口座通帳とキャッシュカードを持っていますの個人が対象で、申込書への記入や印鑑は不要。簡単かつスピーディーに申し込むことができます。

定期貯金・定期積金ともに店頭金利に年０・１００％を上乗せします。総合口座通帳とキャッシュカードを持参し、当組合のＡＴＭで手続きをしてください。

定期貯金の預入期間は１年間で、預入金額は１口１万円以上２９万９千円以下。自動継続式の取り扱いとなり、２年目からは店頭金利が適用されます。定期積金の契約期間

ＡＴＭで手軽に貯金 金利上乗せ、印鑑不要

は１年間で、毎月の掛込金額は千円以上（契約金額１万２千円以上）。掛金は自動振替での払い込みとなります。

定期貯金と定期積金を合わせ、１人３口まで開設可能。取り扱いは時間は午前８時４５分～午後７時（土日祝除く）。詳しくは同封チラシを確認の上、最寄りの金融センターまでお気軽にお問い合わせください。

◇ 1月1日から、JFマリンネットバンクの他行宛て振込手数料が引き下げられました。3万円未満なら170円下げ270円に、3万円以上では220円下げ440円になりました。系統宛ては従来通り（3万円未満110円、3万円以上330円）です。

JFみやぎATM限定 定期貯金・定期積金 金利上乗せキャンペーン

取扱期間
令和3年11月1日(月)
～令和4年3月31日(木)

店頭金利 **+年0.100%**

申込書記入なし 印鑑不要 かんたんスピーディー

JFみやぎの総合口座通帳とキャッシュカードをお持ち頂き
JFみやぎのATMでお取引願います。

ATM定期貯金・定期積金 取扱可能時間 月～金曜日 8:45～19:00

JF マリンバンク 宮城県漁業協同組合

宮城県金庫センター(東仙台総合支所) 0226-26-4720
石巻金庫センター(石巻総合支所) 0225-24-1145
塩釜金庫センター(塩釜総合支所) 022-361-9210

広げようSDGs

明るく社会目指し勉強会

宮城県協同組合こんわ会



当組合など県内4団体「合こんわ会主催の今年度で構成する宮城県協同組合」IYC（国際協同組合年）学習会」が昨年11月12日、仙台市青葉区のJAビル宮城で開かれた。貧困問題やSDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした基調講演する國學院大の古沢広祐客員教授

基調講演を通じ、地域社会の持続的発展に向け協同組合が果たすべき役割を考えた。

講師を務めた國學院大の古沢広祐客員教授は、新型コロナウイルス禍は貧困や格差が拡大している現実を如実にあぶり出したと指摘。17の目標（ゴール）を掲げ、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓い、令和12年までの達成を目指すSDGsの意義を強調した。SDGs達成に向けた協同組合の役割は「生産・消費の変革」であると強調。「各種取り組みは企業（団体）のイメー

こども食堂に食品贈呈 新ノリ500袋、米なども



コロナ禍で困窮する子どもや家庭を支援しようと、宮城県協同組合こ

な資源管理▽食品ロス削減▽3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの実践を促した。

平成3年発足のこんわ会は豊かで明るい地域社会の実現を目指し活動。当組合とJA宮城中央会、宮城県生活協同組合

連合会、宮城県森林組合連合会が組織する。IYC学習会は同24年の国際協同組合年の理念に基づき毎年開かれ、今年度は

「組合間の連携と情報発信をより一層強化し、持続可能な社会の発展に寄与していく」とのアピールを採択した。

支援品は当組合石巻湾、矢本、宮戸、七ヶ浜各支所産の新ノリ計500袋（1袋10枚入り）ほか、農業や化学肥料を抑えて県内で栽培された環境保全米の新米（ひとめぼれ）、乾燥しいたけ、インスタント袋麺など。

支援品贈呈は昨年度に続き2度目。今年度は仙台湾市内のこども食堂約25団体へ分配されたという。当組合指導部の奥田一也部長は「コロナ禍で生活が厳しい子育て世帯もあると聞く。宮城自慢の栄養豊富なのりを食べてもらえたら」と願った。

七ヶ浜支所 鈴木颯太さん(27)



自慢のノリを全国ブランドに

祖父も合わせて3代目。祖父は七ヶ浜でノリの協業化を進めた先駆けだ。長男でもあるため、ゆくゆくは家業を継ぐと思っていた。

実は2年前までは七ヶ浜支所の職員。社会に出て経験を積むとともに、いつかはノリ生産者にと

七ヶ浜支所の期待の若手ノリ生産者。眞浦田浜の3者共同のグループで、両親とともにノリ養殖に精を出している。昨年の秋に石巻で行われた全国海づくり大会では、若手代表として、両親下に大会記念放流稚魚（ノリ）を紹介した。

という思いは日々強まってきた。漁協職員を辞めて家を手伝うようになったのは、父が体を壊したのがきっかけ。少しでも楽をさせてあげなくてはならないの思いからだ。大会に大会記念放流稚魚（ノリ）を紹介した。

色も年々違うものができるという思いは日々強まってきた。漁協職員を辞めて家を手伝うようになったのは、父が体を壊したのがきっかけ。少しでも楽をさせてあげなくてはならないの思いからだ。大会に大会記念放流稚魚（ノリ）を紹介した。

「いいノリを作って七ヶ浜の知名度を上げた」まっすぐに前を見つめそう話す。七ヶ浜産というだけで質の高い高級のりというブランドを全国の人が認識するよう、そんな未来が目標だ。もともと皇室献上のりの常連として知られた七ヶ浜のノリは、機械化・分業化が進んだことで漁場の品質管理もさらに行き届くようになり、安定していいノリを生産できている。

支所の職員を5年間続けたことで、組合と生産者双方の事情がわかるのが颯太さんの強みでもある。「組合の職員をしてい

祖父も合わせて3代目。祖父は七ヶ浜でノリの協業化を進めた先駆けだ。長男でもあるため、ゆくゆくは家業を継ぐと思っていた。

実は2年前までは七ヶ浜支所の職員。社会に出て経験を積むとともに、いつかはノリ生産者にと

山積み。今やと半人前くらいですかねと笑う。「ノリ作りの面白さは、海の状態などで味も

厳しいと話す。ノリの仕事がない夏場は素潜りでアワビも採っている。ベテランにはまだ遠く及ばないが、採れるようになってくるとなかなか面白い。青年部活動ではトリガイの養殖に挑戦し、ほか

のノリへの思いは熱い。趣味はビリヤードやダーツ。自前のキューも持っている。

日本漁船保険組合宮城県支所



信頼と安心を載せ心おきなく海原へ

漁船保険は、漁船の海難事故による自船の損害や、第三者に与えた損害などを補償する漁業経営のセーフティネットとして、国が関与する制度であり、稼働漁船の大部分が加入している。漁船保険組合は全国各都道府県に45組合あつたが、東日本大震災での保険金支払額が560億円



阿部達男運営委員長



佐藤和康支所長

にも達し、特に甚大な被害を受けた岩手県と宮城県の組合では準備金が不足し、国の支援を受け、これを契機に、今後予想される大災害に備え、将来にわたって安定的な保険事業を運営していくためには、漁船保険組織全体の財政基盤の強化が必要と考え、平成29年に全国の漁船保険組合と漁船保険中央会が統合。中央会が本所となり、全国の組合は支所として、組織を一元化した。漁船保険の種類は、「普通損害保険」「満期保険」「漁船船主責任保険」「漁船乗組船主保険」「漁船積荷保険」「プレジャーボート責任保険」「転載積荷保険」および「戦乱等特約」等があり、さまざまな事故、リスクに対処。漁業者が漁船保険に加入するときは漁協(県漁協は各支所)を通して手続きを行う。

引受は全国トップクラス

宮城県支所の特徴は、漁業種類が多様なため漁船の形態がバラエティに富んでいること。沿岸の小型漁船から大型の遠洋漁船までさまざまで、プレジャーボートの引受け

漁業者ファースト

自らが漁業者でもある阿部達男運営委員長は、

「漁業者が安心して沖に出ている、そのバックボーンを支えているのが漁船保険。あつてはならないけれど、不可抗力で事故があつた場合、迅速に手助けをしてもらえ、そういう安心感がある。初めて商売ができた」と話す。「無事故で大漁が一番」と佐藤和康支所長は強調する。

「漁業者が安心して沖に出ている、そのバックボーンを支えているのが漁船保険。あつてはならないけれど、不可抗力で事故があつた場合、迅速に手助けをしてもらえ、そういう安心感がある。初めて商売ができた」と話す。「無事故で大漁が一番」と佐藤和康支所長は強調する。

誕生150周年ロゴ決定

高校生考案、一般利用も可

宮 城 県

今年で誕生から150周年を迎える宮城県は記念ロゴマークを決めた。今後、記念事業のPRなどに活用、節目を祝う機運を盛り上げていく。

県内の高校生を対象に作品を募り、148点の中から古川工高3年佐々木七海さんの案を採用。仙台藩祖伊達政宗のかぶとの前立てに使われた三日月と仙台七夕まつりの吹き流しを「150」の数字のデザインに取り入れ、背後にあしらった黄金色の稲穂で宮城の自然の豊かさを表現した。

明治5(1872)年2月16日、旧仙台藩を中心とした仙台県から改称する形で今の宮城県となった。県は節目に当たる今年2月に記念宣言を行い、秋には式典を開催。記念誌発行や観光キャンペーン実施なども計画しており「記念事業を契機として150年の歴史を振り返り、郷土に対するさらなる愛着を醸成するとともに明るい未来を展望し、地域の魅力を生かしながら交流人口の拡大と地域活性化を図ってきたい」としている。

関係先を訪ねて



高橋平勝理事長



佐藤文志参事



漁業者に寄り添い経営安定を下支え

中小漁業者等が金融機関から融資を受ける際、公的な立場から保証人となる機関。昭和27年に中小漁業融資保証法が制定され、その翌年宮城県の協会が設立された。「漁業・水産業は自然が相手ですから、今年収入があつても来年再来年あるとは限らない。われわれのようなところが保証する

いと金融機関もお金を貸しにくいんです」と高橋平勝理事長。金融機関に対し債務保証をすることで資金の融通を容易にできた。

万が一借受者がやむを得ない事情で金融機関への返済ができなくなった場合代位弁済をし、その後は協会が債権者となつて、借受者は協会に借入金返済する。

水産県宮城では、もともと融資の需要も高かつた。また、昭和50年代から興ったギンザケ養殖は多くの漁業者が後に続いたが、チリへの技術移転が輸入に化して価格が暴落。窮地に陥つた漁業者の代位弁済に奔走した。

震災復興の資金融資

そして東日本大震災。全てを失つた漁業者や水産加工業者も多く、漁協の支所もほぼ壊滅。震災前からの借入金、国の助成も受けながら基本的な代位弁済をした。その額は29億円にも及ぶ。震災年とその翌年、漁業者や関連施設の復興のために、協会は45億円、80億円という金額を保証し、その後現在に至るまで、毎年約30億円以

上の保証を行って復興・事業再生を支えてきた。金利の減免・免除、協会保証付きの人には保証料も免除するなどで金利や保証料の負担がふくれていくことを防ぎ、代位弁済した案件について、元本の長期的な償還計画を立て、ほかの融資を受けても償還しやすいようにした。個々の状況に応じて返済計画を立てましたが、皆さんきちんと払ってくださっています」と高橋理事長は話す。

また、コロナ禍の影響を受けた漁業者や水産加工業者が融資を受ける際にも支えている。JFマリバンクの災害資金、県の制度資金などに対しては保証している。

「漁家経営を安定させるよう、水産金融を円滑に回せるようにサポートしていければ」と佐藤文

地元密着で柔軟対応

ここ最近では、ホタテ半成目のへい死、貝毒による出荷規制などが相次いだ。だが、事業の継続資金の調達に大きな力となってきた。漁船リース事業、機器導入事業などの保証も積極的にしている。

職員は嘱託含め5人。常勤役員1人、非常勤理事6人。会員(出資者)約300人。令和2年度の保証件数222件、保証金額約30億3千万円、保証残高約11億2千万円。震災後の累計保証額は約2900億円に上る。仙台市青葉区本町3の6の16、電話022・221・5326

宮城県漁業信用基金協会



宮城県誕生150周年記念ロゴマークのデザイン

県内の高校生を対象に作品を募り、148点の中から古川工高3年佐々木七海さんの案を採用。仙台藩祖伊達政宗のかぶとの前立てに使われた三日月と仙台七夕まつりの吹き流しを「150」の数字のデザインに取り入れ、背後にあしらった黄金色の稲穂で宮城の自然の豊かさを表現した。

明治5(1872)年2月16日、旧仙台藩を中心とした仙台県から改称する形で今の宮城県となった。県は節目に当たる今年2月に記念宣言を行い、秋には式典を開催。記念誌発行や観光キャンペーン実施なども計画しており「記念事業を契機として150年の歴史を振り返り、郷土に対するさらなる愛着を醸成するとともに明るい未来を展望し、地域の魅力を生かしながら交流人口の拡大と地域活性化を図ってきたい」としている。